

## 雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台  
地域火山監視・警報センター

雌阿寒岳で、6月29日から30日にかけて、ポンマチネシリ火口付近で火山性地震が一時的に増加しました。

雌阿寒岳では、過去に一時的な地震増加を繰り返した例がありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞

### ○活動概況

#### ・地震及び微動の発生状況（図1～3）

29日15時頃からポンマチネシリ火口付近を震源とする振幅の小さな火山性地震が増加しはじめ、19時頃から30日01時頃にかけて1時間あたり20回以上になる時間帯もありましたが、その後は地震回数が徐々に減少して、30日03時以降には1時間あたり10回未満となっています。29日15時から30日12時までの地震回数の合計は215回（速報値）となりました。24時間の地震回数が200回を超えたのは2018年11月23日以来です。

また、振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が2回発生しています。火山性微動の発生は2022年8月27日以来です。

#### ・噴気など表面現象の状況（図4～5）

27日以降天候不良が続いていますが、本今朝に監視カメラで確認したところ、ポンマチネシリ96-1火口、赤沼火口及び北西斜面06噴気孔列の噴気の状況には特段の変化はありませんでした。

#### ・地殻変動の状況

GNSS連続観測及び傾斜計による観測では、今回の地震増加に関連すると考えられる特段の変化は認められていません。

### ○活動評価

雌阿寒岳では、2022年8月頃から山体の浅部及び深部の膨張を示すと考えられるわずかな地殻変動がみられ、8月下旬には火山性地震の一時的な増加や継続時間の短い火山性微動の発生がありましたが、各火口の噴気活動には特段の変化はみられませんでした。2023年に入ってから、地震回数は少ない状態で経過しており、膨張を示す地殻変動も停滞した状態となっていました。

今回、一時的な地震増加がみられましたが、雌阿寒岳では、過去にも1日に100回を超えるような地震増加を繰り返した例がありますので、今後の火山活動の推移には注意する必要があります。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

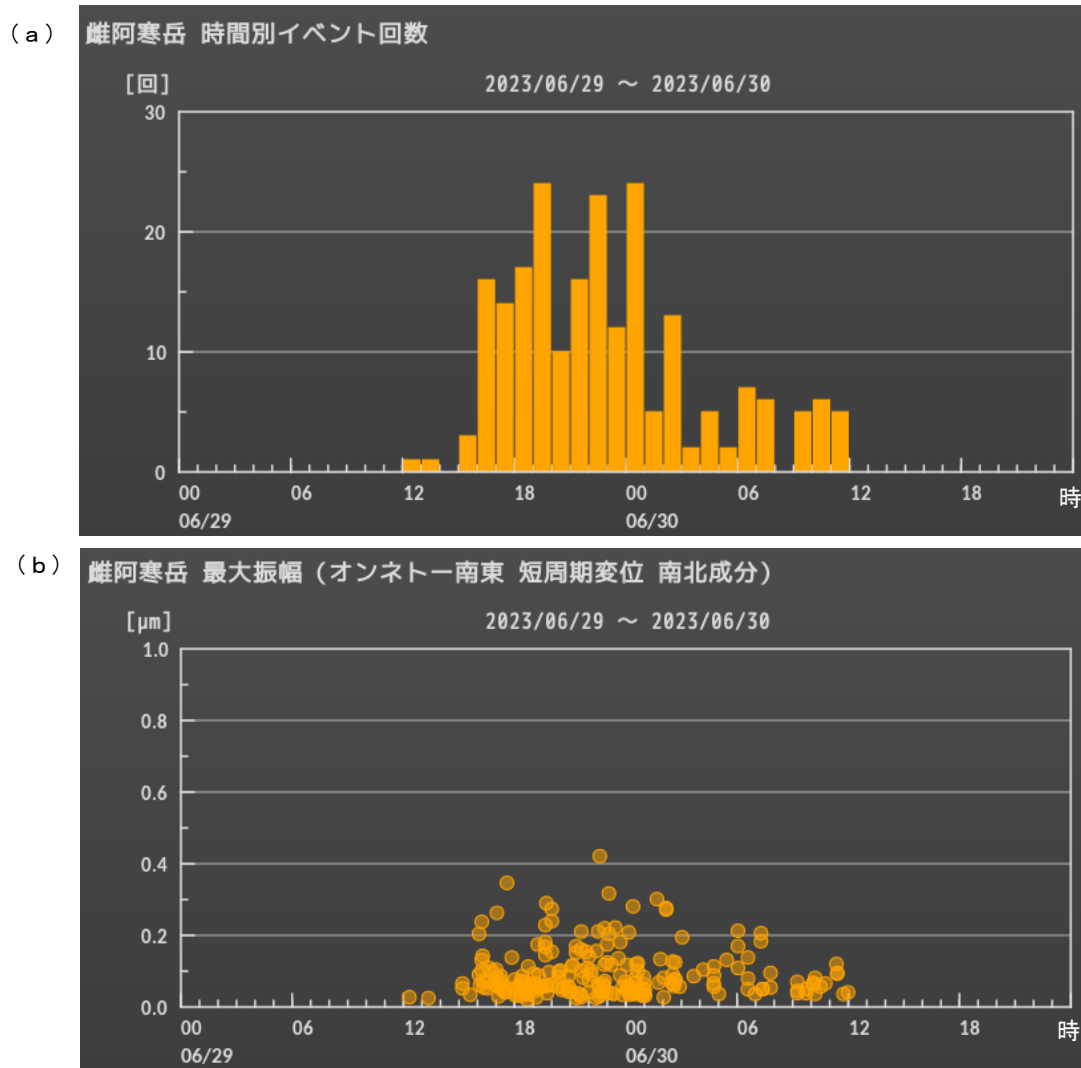


図1 雌阿寒岳 火山性地震の発生状況（6月29日～30日12時）

(a) 特別地震回数 (b) オンネトー南東観測点南北成分の最大振幅

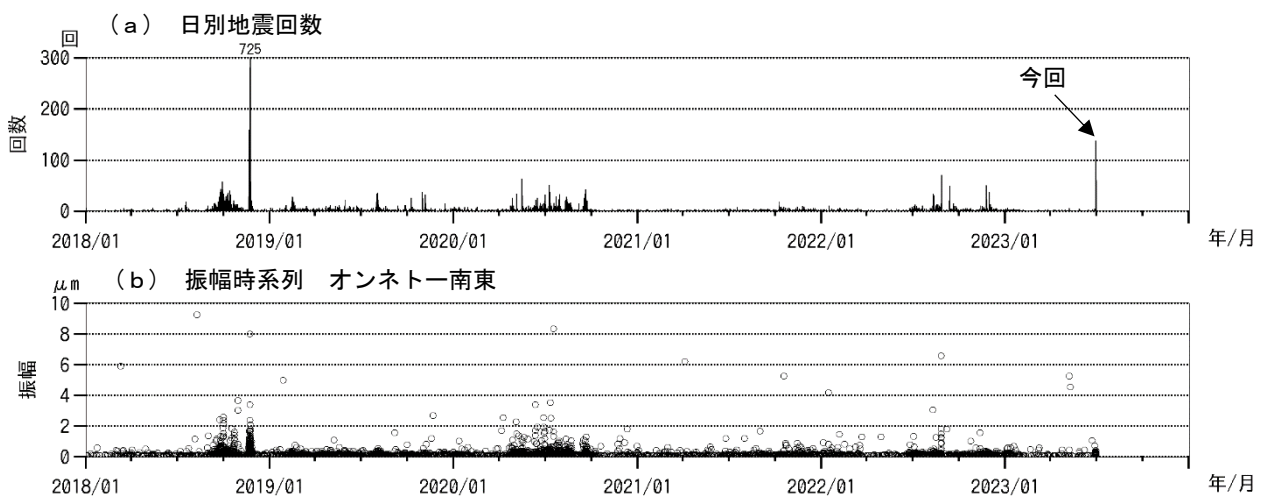


図2 雌阿寒岳 火山性地震の発生状況（2018年1月1日～2023年6月30日12時）

(a) 日別地震回数 (b) オンネトー南東観測点南北成分の最大振幅

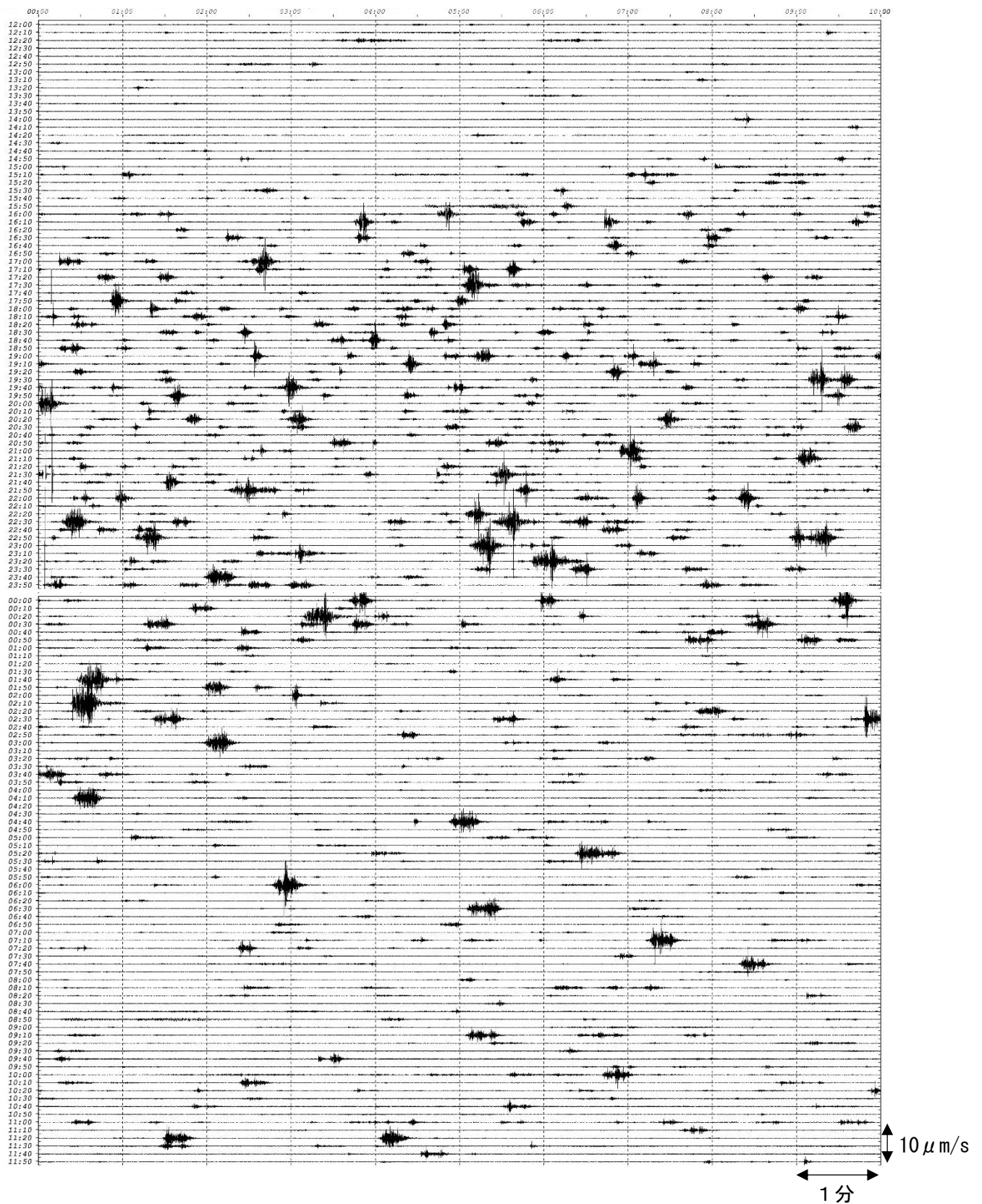


図3 雌阿寒岳 オンネトー南東観測点の上下速度波形（6月29日12時～30日12時）



図4 雌阿寒岳 南西側から見た96-1火口の状況（阿寒富士北監視カメラによる）



図5 雌阿寒岳 西側から見た赤沼火口及び北西斜面06噴気孔列の状況  
（オンネトー展望台（道）監視カメラによる）



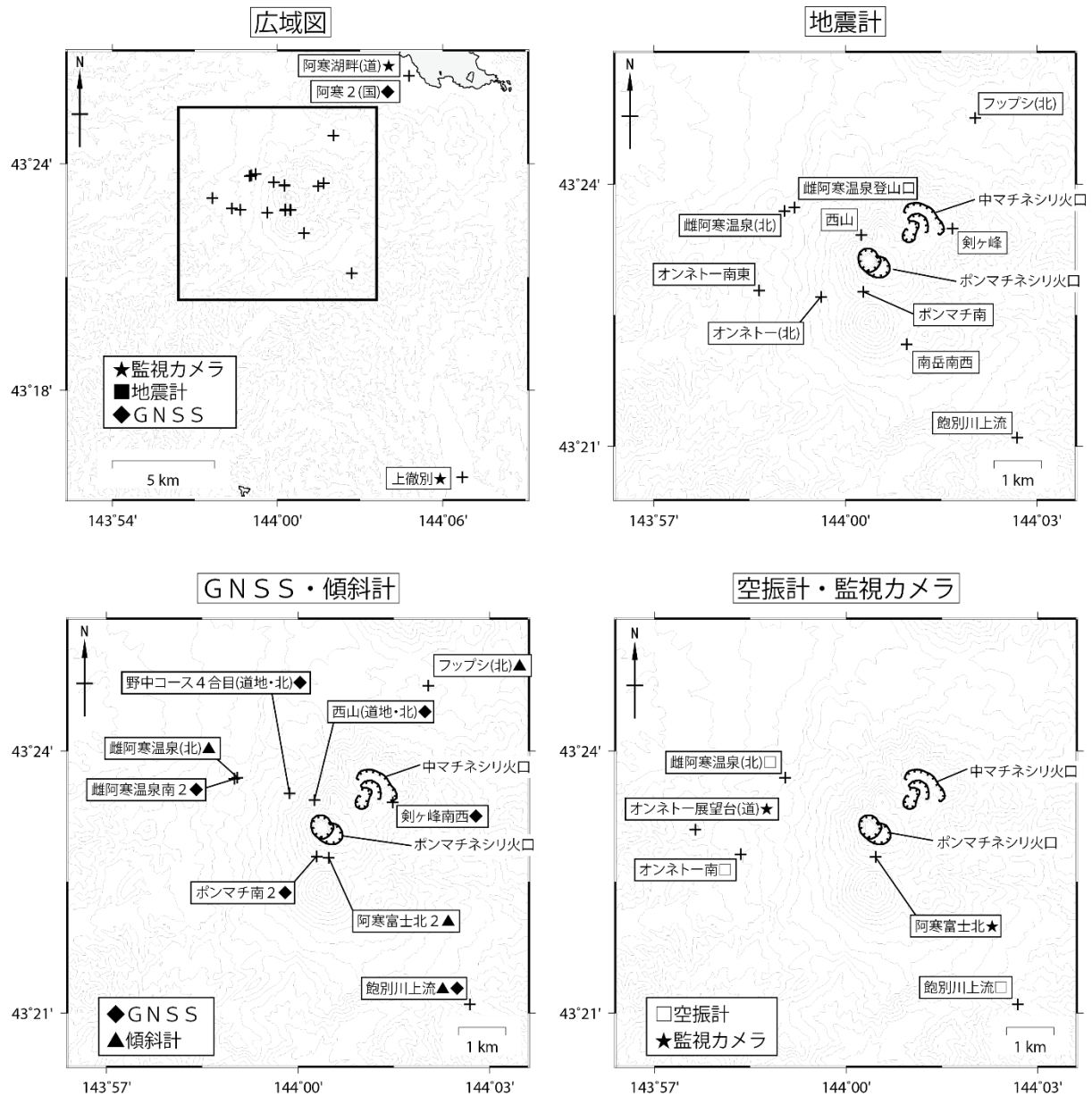


図6 雌阿寒岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で示した領域を拡大したものです。

+: 観測点の位置  
(国): 国土地理院 (北): 北海道大学  
(道): 北海道  
(道地): 地方独立行政法人北海道立総合研究機構  
エネルギー・環境・地質研究所

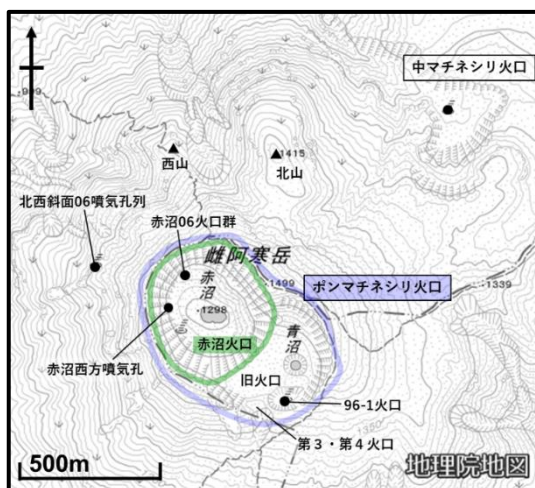


図7 雌阿寒岳 火口周辺図